

# 熱傷

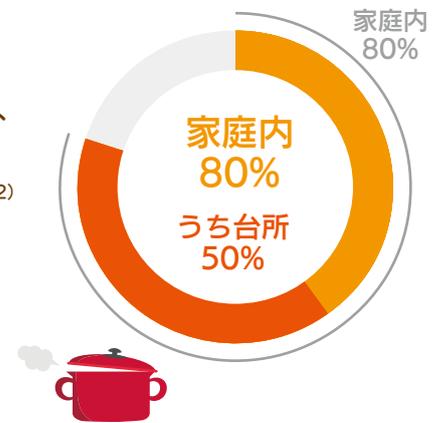


## 1. 疫学

熱傷のおよそ80%が家庭内(そのうち50%は台所)で発生しており、特に1歳児に最も多い<sup>1)</sup>。

小児の場合、54℃で10秒、71℃で直ちにⅢ度熱傷を呈すとされる<sup>2)</sup>  
(因みにコーヒーを美味しく飲む適温は60-70℃とされている)。

熱傷の原因は、どの年齢でも味噌汁・お茶・麺類といった日常的に接する機会の多い飲食物が高い割合を占めている。熱傷部位は、四肢や頭部・胸部の腹側に多い<sup>3)</sup>。



## 2. 病態

深度は臨床所見により

Ⅰ度からⅢ度に分類する方法が臨床的に広く用いられている<sup>4)</sup>。

小児は皮膚が薄く、成人より深く広がりやすい。

受傷後48-72時間は、深度の評価が困難なことがある<sup>2)</sup>。



Ⅲ度熱傷

## 3. 応急処置

院外から問い合わせを受けた場合は、ただちに水道水で20分程度の冷却を指示する。

氷水は推奨されない<sup>5)</sup>。熱傷が広範囲の場合は冷却による低体温に留意する。

病院到着後は、まず初期評価→一次評価→二次評価

と系統立てて全身状態を把握し、必要に応じて介入する。

続いて、病歴聴取と身体診察を行う。

病歴聴取では親の心情に配慮しつつも詳細に行い、不自然な点があれば虐待も念頭に置く。

局所の初期治療の概略は、脱衣、壊死組織の除去、創部の洗浄と保護である。

Artzの基準<sup>4)</sup>およびMoylanの基準や、熱傷への耐性が低い幼児への配慮がなされている

American Burn Associationによる熱傷センターへの紹介基準<sup>2)</sup>を参考に

輸液、入院、専門施設への紹介を考慮する。



## 4. 予防・啓発



- 給湯温度の設定を50℃以下にする。
- 子どもを熱源から遠ざける。
- テーブルクロスは使用しない。
- 熱湯の蒸気ができる加湿器や炊飯器を使用しない。
- 湯漏れ防止機能付き電気ケトルを使用する。などがある<sup>1,3)</sup>

参考文献 1) 鶴和美穂ら. 日小児会誌 2013; 117: 1492-1496.

2) American Burn Association. "Advanced Burn Life Support Course PROVIDER MANUAL 2018 UPDATE". <http://ameriburn.org/wp-content/uploads/2019/08/2018-abls-providermanual.pdf>. (参照 2021-10-8).

3) SAFE KIDS JAPAN. "子どものやけどを予防するために". SAFE KIDS JAPAN 参考資料・動画一覧. <https://safekidsjapan.org/prevention/?paged=2>. (参照 2021-10-8)

4) 吉野雄一郎ら. 熱傷診療ガイドライン. 日皮会誌 2017; 127: 2261-2292.

5) BR Griffin, et al. Ann Emerg Med 2020; 75: 75-85.